

## 7 建築現場の作業(建築現場における事務職含めた全職種)

【関連する職種(一般の呼称)】	
○野丁場(のちようば)の仕事(マンション、ビル等の建築)、街場(まちば)の仕事(戸建住宅等の建築)	
○型枠大工、とび、内装大工、鉄筋工、鍛冶工、内装大工、建築設計、現場監督、施工管理、電気工事士、ハツリ、ガス配管、給排水管工事、玉掛け・クレーンオペレータ、雑役	
○建具、内装大工、室内装飾工、表具工、サッシ、住宅設備、畳工、瓦工、クロス工、電気工事士、屋根葺き(ふき)、タイルはり、給排水管工事、ブロック工、防水、左官、塗装、サイディング工	
【石綿製品(代表的な2、3)】	
石綿含有屋根材、石綿含有ボード(外壁材・内装材)	石綿セメントビニル管
石綿吹きつけ材	石綿保温材・煙突材



A 鉄骨で建物の骨格を作ります(鉄骨工事・とび職)。建物の仕様・要求によりこの柱や梁に後から耐火被覆(石綿の吹きつけ)を施工します。



B 鉄骨建て方・床・屋根が出来ると耐火工事が始まります。吹きつけ機を用いて石綿の吹きつけがおこなわれていました。



C 吹きつけとは別の工法で茶石綿で出来た石綿耐火被覆板の張り工事。クギ、カスガイおよび石綿含有耐熱接着剤で留めます。昭和45年前後の工法で、吹き付けに比べればばく露量は少ないですが、現場で切断加工する際には粉じんが発生しました。



D 左と類似していますが、主材が白石綿+ケイ酸カルシウムで出来たキレイな白い表面のボード。柱にも使えます。現場での寸法合わせでの切断は多量の粉じんを発生させてしまいます。



E 建物内の給排水用パイプ、石綿セメントビニル管。室内との温度差によるパイプ表面の結露防止対策として、内側は流水し易い塩ビ管にして外皮に石綿管を断熱材としていました。破損や修理時にばく露の可能性があります。

塩ビ管

石綿管



F 煙突ライニング材。写真はノンアス品。従前は茶石綿の高含有品を使用。多くのビルで採用していました。煙突内の上昇気流(ドラフト)で若干、繊維が大気に放出され作業員がばく露する可能性があります。

## 7 建築現場-2 野丁場作業



A 左官工事の壁下地調整。この後に塗装したり壁紙を貼ったりの作業があります。これらの下地用接着剤等に不純物としての石綿が入っていた可能性があります。



B サッシ工事(金属建具工事)。写真では判りづらいのですが内壁などに吹つけられている石綿を少し掻きとって鉄骨面から補強のリブ(カ骨)などを入れる箇所があります。



C タイル工(Pタイルは商品名で一般名称はビニールアスベストタイル、縮めてビニアスタイルと呼ぶ)。昭和の時代は全て白石綿が高含有。このタイル張りの接着剤にも石綿が含有されており、修理、解体時にばく露の可能性があります。



D 体育館などの木質フローリング張り。下地は鋼製二重床。石綿セメント板など2層から3層貼られています。これにフェノール樹脂配合の接着剤などで仕上げの床を貼ります。修理、解体時にばく露の可能性があります。



E トイレ取付けなどを給排水設備工事(衛生工事)といいます。石綿セメント板や石綿化粧タイル板の壁に穴を開けたり、カットしたりするため、石綿ばく露が皆無とは言い切れません。



F 塗装(ガン吹き)工事。塗料には顔料、沈降防止剤、増量剤、流動性増進剤などの目的で白石綿混入のタルクがはいつていました。



G クロス工。下地の石膏ボード(石綿含有時期あり)の継ぎ目にパテしごきします。パテ(石綿含有は未確認)は乾燥により痩せるので何度も丁寧にかけます。



H シーリング(ローキング)作業。継ぎ目や隙間、クラック部などに充填します。以前のコーキング材にはかなりの含有率で石綿が入っていました。劣化するとボロボロになるものもあります。

※掲載した写真はイメージ写真です